

令和5年度 事業計画書

令和5年4月 1日から

令和6年3月31日まで

学校法人 螢池学園

1. 法人の概要

名 称 学校法人 螢池学園（昭和57年3月31日法人設立）

代表者 理事長 泉 潔

住 所 豊中市螢池西町1丁目11番3号

電 話 06-6843-1234

F A X 06-6843-1254

設置する学校・施設 1. 名 称 認定こども園 螢池文化幼稚園（幼稚園型認定こども園）

住 所 豊中市螢池西町1丁目11番3号

2. 名 称 いずみ保育園（豊中市認可保育園）

住 所 豊中市螢池中町3丁目9番15号

3. 名 称 あっぷるこども園（豊中市認可保育園）

住 所 豊中市螢池中町3丁目8番7号

役 員 理 事 6名

監 事 2名

評議員 13名

理事会 2回開催

評議員会 2回開催

職 員 認定こども園螢池文化幼稚園 29名（非常勤含む）

いずみ保育園 24名（非常勤含む）

あっぷるこども園 14名（非常勤含む）

2. 事業計画

《認定こども園 螢池文化幼稚園》

〈運営方針〉

本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、就学前の子供に関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第3条の認定を受けた幼稚園型認定こども園として、小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援の総合的な提供を行うことを目的とする。

〈教育方針〉

よく考えみずから行動できる子

きまりの守れる心のやさしい子

美しくあたたかい心を持った子

明るくのびのびとした元気な子

〈教育・保育内容〉

教育時間における保育内容は、幼稚園教育要領に示された五領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現等）のねらいを基本として、平成30年度に大きく改訂される幼稚園教育要領に示されている以下の「幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿」を目標として教育・保育を提供するものとする。

1.健康な心と体 2.自立心 3.協同性 4.道徳性・規範意識の芽生え 5.社会生活との関わり 6.思考力の芽生え

7.自然との関わり・生命尊重 8.数量・図形、文字等への関心・感覚 9.言葉による伝え合い 10.豊かな感性と表現

これらを十分育んだうえで、小学校での本格的な学びへと段差無く円滑につなげていく。

また、教育課程として、規律正しくあいさつのできる子どもを基本とし、通常保育の中で多くの行事を経験することにより、自ら学び考える子を育てる。

また、保育教諭の他に体操・スイミング・英語の専任講師による指導で体力・国際感覚を増進させる。年長児はエスアイ知能あそび（知能教育）を取り入れている他、動画やリモートでの海外園との交流などを通していろいろな国の文化や言語に触れる「ぶんかドア」と名付けた国際教育活動や、蛭池地区のお年寄りとの交流「ふれあいサロン」や小学生との交流活動も増やし、温かい心とコミュニケーション力を育て、小1プロブレムの無いように、幼少連携を推進し、小学校へのスムーズな接続を目指す。

来年度は新型コロナウイルスも終息し、3月13日以降のマスクの着用は個人判断となり、5月8日からは感染法上の分類が2類から5類に変更されるなど、各種行事や保育活動を以前の状態に戻すことができると思われる。

また、コロナ禍のため、やむなく導入したICTソフト・ハードであるが、これらにより可能になった「リモートでの集会」や「保育者と保護者をつなぐコミュニケーションツール」などは、「登降園管理」も含め、今後の職員の業務効率化および園児の安全対策や保護者との情報共有に非常に有効であるため、これからもうまく活用し、保育の質向上につなげていきたいと考えている。

そして、幼稚園バスの置き去り防止等については、前述の登降園管理のICT化に加え、幼稚園バス置き去り防止安全装置2台取り付ける予定である。（2ヶ月前に発注済みではあるが、納期が3月末になり予定）現状は添乗職員の管理リスト等を更新し、バス運転手にも確認チェックリストなどで安全管理を厳正におこなっている。

※導入ICTソフト・ハード等（主なもの）：

園管理システム「コドモン」、リモート会議ソフト「ZOOM」、各保育室や子育て支援室に Apple Airplay 対応 65 インチモニターと iPad および iPod touch、事務室・預かり保育室などに登降園管理とクレジットカード決済「Air ペイ」対応 QR コードリーダーおよび iPad など。

また、通常提供する教育・保育のほかに、以下の教育・保育及び子育て支援事業を行う。幼児教育の無償化により、就労している保護者のための新2号認定という新しい認定が設定されたが、その新2号認定児が無償で預かり保育を利用できる範囲を拡充するため、今年度も継続して預かり保育利用料を1時間150円値下げを継続する。

他に、未就園児への支援として、園舎・園庭の開放として「おあそび会」や、乳児の親子支援として「ぶんかベビーカフェ」を開いて地域の子育て支援を進めている。

(1) 幼稚園型一時預り保育事業（ファミリークラス）

子育て支援事業として保護者の子育てを支援するために、1号認定園児に対し、通常の教育時間を超えて保育の提供を行う。

・通常保育時 月・火・木・金曜日 15:00～18:00 〈3時間/450円〉

水・午前保育日 12:00～18:00 〈6時間/900円〉

・長期休暇中および保育の無い土曜日（春・夏・冬休み期間及び休園日）

月・火・水・木・金・土曜日 8:00～18:00 〈10時間/1,500円〉

(2) 延長・早朝保育

1号認定・2号標準時間認定児ともに月～土曜日の18時から19時まで、2号保育短時間認定児については17時から19時まで、それぞれ就労状況などにより、保育が必要な場合に延長保育を行う。

また、1号認定児および2号保育短時間認定児は月～土曜日の7時から8時まで、それぞれ就労状況などにより、保育が必要な場合に早朝保育を行う。延長・早朝とも〈1時間/150円〉

(3) おあそび会

地域の未就園児及びその保護者を対象に、原則月1回午前10時から午前11時まで、専任の保育者のもと保育室及び園庭開放を行う。

(4) キンダーカウンセリング

地域の子育てを行う保護者を対象に、原則月1回各1時間、臨床心理士が子育ての相談に応じる。

(5) 未就園2歳児バンビクラス 令和5年度 約38名(定員充足)

地域の満2歳以上の幼児を対象に、月～金曜日までのうち、週1～3回登園し、午前9時から午前11時30分まで、入園前の未就園児(2歳児1クラス15名)のプレスクール保育を幼稚園教諭が3人体制で行う。

(6) 子育て支援室「ぶんかベビーカフェ」

地域の乳児及びその保護者を対象に、毎週火曜日10時から14時頃まで子育て支援室を開放し、お茶を飲みながら保育教諭や子育て経験者による子育て相談ができたり、子育て情報誌や役所の資料などを用意している。毎週数人の乳児とその保護者が来園し、保育教諭とリラックスしながら遊んだり、子育て情報の交換ができている。

〈定員及び学級〉

本園の利用定員は、来年度の3歳児の1号入園が増加し、ほぼ定員を満たすため、就労する母親の増加に合わせて変更した昨年度の定員を変更せず、子ども・子育て支援法第19条第1項の第1号認定の子ども120名、同項2号認定の子どものみを90名とし、園全体の収容定員は各学年70名、合計210名、9学級とする。

※令和5年度3歳児クラス73名(1号認定38名、2号認定29名、満3歳児6名)の予定。

4歳児クラスの転出が多かったため、4歳児のみ2クラス、計8クラスとなる。

〈教育・保育時間〉

(1) 開園時間	午前7時から午後7時まで
(2) 教育時間	月・火・木・金曜日 午前8時から午後2時30分まで
	水・土曜日 午前8時から午前11時30分まで
(3) 保育短時間認定	月～土曜日 午前9時から午後5時まで
(4) 保育標準時間認定	月～土曜日 午前7時から午後6時まで

〈納付金〉

- 1 本園は、利用した園児の保護者から、当該市町村の定める利用者負担額(保育料)について支払いを受けるものとし、その他の費用は次のとおりとする。ただし、制服代、道具代など必要に応じて実費を徴収する。

費用の種類	納付額	徴収の対象	徴収の目的	納付時期
入園検定料	1,000 円	全園児	入園検定に要する費用	入園申込時
入園準備費	30,000 円	全園児	入園準備に要する費用	入園決定時
施設協力費	20,000 円	全園児	園舎等の整備に要する費用（年一回徴収）	毎年 4 月
教育充実費	3,500 円	全園児	外部講師、教員の増員に要する費用	毎月 6 日まで
行事費	1,500 円	全園児	園外保育、行事に要する費用	毎月 6 日まで
保護者会費	1,000 円	全園児	保護者会活動のための会費	毎月 6 日まで
教材費	1,000 円	5 歳児のみ	年長知育・国際教育教材に要する費用	毎月 6 日まで

- 2 納付された入園検定料及び入園準備費は、入園を辞退した場合でも返還しない。施設協力費については、中途退園した場合は退園後の年数分は徴収しない。
- 3 平成 31 年度 10 月より始まった「教育・保育の無償化」制度により、当該市町村の定める利用者負担額（保育料）については保護者からは徴収せず、保育料は施設型給付費として蛭池文化幼稚園が法定代理受領する。

〈給食の費用〉 施設負担により無償

給食費に関しては創立 80 周年から地域への還元の意味を込めて無償化しているが、令和 5 年度もそれを継続する。

〈預かり保育及び延長・早朝保育の費用〉 1 時間 150 円（月払い）

※2 号認定児の早朝・延長料は、豊中市の他の認可保育園と同様、1 時間 200 円とする。

〈施設・設備関係〉

園地面積 1,733 m² 運動場面積 1,090 m²

国・府の ICT 推進補助金を利用し、試験的に採用していた認定こども園 ICT システム「コドモン」を本格導入済。（園と保護者を結ぶ連絡やアンケート、資料配布、スクールバスの位置共有や QR コードによる登降園管理などができる）

また、それに伴い、各保育室に大型モニターを設置、各担任に iPad と iPod touch を支給し、園内連絡や園内行事のリモート化、海外の幼稚園との ZOOM での交流や映像での国際交流保育活動（ぶんかドア）、また保護者とのリモート懇談や保護者会のリモート会合などに活用している。

〈計画内容〉

新年度は、幼稚園型認定こども園に移行して 9 年目となり、**ブログやショートムービーなどでの保育内容の情報共有や行事・保育内容の充実（分散・効率化、国際化や非認知能力重視の保育内容に移行）と、最近話題になっている配置基準は、数年前より 1 クラスの園児数を大阪府の提唱する 20 名前後としており、特に入園したばかりの 3 歳児クラスについては、複数担任制プラス加配またはフリーの保育教諭 3 名体制とし、重要な幼児期の保育を充実させていることが、口コミ等で広まったことにより、少子化ではあるが園児数の大幅な減少はまぬがれている。**今後も全学年 60 名前後のバランスの取れた定員で、さらに保育の質向上を進めていく。

学校教育の歴史的な大転換期を迎え、本園でも自ら考え、行動し、協力するアクティブ・ラーニングという考え方を基本に、現在の保育内容を「主体的・対話的で深い学び」に変更しつつ、幼児の非認知能力の向上を重要視した保育を進める。

また、ICT化の活用もふくめた保育の質向上を継続して進め、保育の「見える化」による保護者との情報共有および幼稚園と家庭との連続性にも引き続き配慮し、さらに小学校へのスムーズな接続の為、幼稚園と小学校の現場の連携も大事にしていく。

また、保育を必要とする幼児も含め、全ての子どもたちが均等に質の高い幼児教育を受けることができるよう保育所機能を充実させ、預かり保育や子育て支援を強化し、卒園児のための学童保育も考慮に入れて計画を進める。

〈長期計画〉

本園園舎の改築のために資金を計画的に積み立て、第2号基本金設定をしているが、本年も計画通り実施する。また、国や府・市の施設整備補助金を活用し、保護者車両送迎時の駐車スペースおよび通園バス乗降場所に、将来的にはこの駐車スペースを残したまま、上に2・3階の建物を建築し、自園調理の給食を出せるような調理室および地域の子育て支援および園児保護者のための子育て支援室、そして学童保育にも対応できるような地域の子育て支援センターとして充実させる計画である。

また、教職員の労働環境についても幼稚園+保育所機能を持った学校として長く健康に働けるよう待遇や配置など労務関係にも配慮し、規則等も整備しつつ、子育てしながら安心して働ける施設へと継続して調整していく。

〈いずみ保育園〉

別紙

〈あっぷるこども園〉

別紙

〈学校法人蛸池学園として〉

財政的には3施設とも、施設型給付園および認可保育所として、園児が増減しても当面安定した運営が続いていくことと予想される。

しかし、資格が必要な多くの人材を必要とする認定こども園や保育所などの施設では、保育士不足に端を発する人材難のため、求人について継続して力を入れていかなければならない。また、人材不足などによる職員のストレスなどから、乳幼児への虐待などが起こらぬよう、待遇（給与のペースアップや扶養手当など）や労働環境（配置基準以上の人員配置）などの改善を進め、優秀な人材を集め、また現在の職員の離職を減らす努力をしていく。

最後に、当学園としては今後も「保育の質向上」の為、人材育成のため、園内外研修やキャリアアップ研修会に積極的に取り組んでゆく。